

I はじめに

吉田町は静岡県の中中部地区の南、駿河湾に面した大井川河口に位置している。面積は20.84平方キロメートル、人口は約3万人。もとは鰻の養殖で有名であったが、近年は工場の進出や宅地化が進んでいる。

町内には小学校が3校、中学校が1校あり、いずれも中規模以上の学校である。町立図書館は平成11年に開館し、総面積2,955平方メートル、蔵書数107,756点、職員数10人の施設である。(平成17年度末)



吉田町地図



吉田町立図書館

II 研究の構想

1 研究主題

読む楽しさ学ぶよろこびにあふれる学校図書館

2 主題設定の理由

(1) 研究の経緯 (資料1、2、3、4、5、6)

吉田町では平成11年度に町立図書館を開館した。その際に、司書となった職員に実務経験を積ませるため、また学校図書館の機能を高めるため平成10年度から、町内の小中学校に司書を一人ずつ派遣した。

平成12年度には学校図書館連絡会議を新設し、教育委員会と町立図書館、学校との連携を密にするための方策を話し合うこととした。

平成13年度には文部科学省の「学校図書館資源共有型モデル地域事業」の指定を受け、蔵書のデータベース化が進められ、司書の派遣システムが充実した。

さらに、平成16年度からは文部科学省の「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」の指定を受け、まず「学校図書館資料収集方針」「学校図書館資料除籍基準」「学校図書館事務分掌」を作成した。これらを図書館経営の基礎とし、学校図書館と町立図書館のネットワークの強化を図り、ネットワークを活用した教育実践活動を推進することになった。そして、こうした活動を支えるために吉田町学校図

書館支援センター委員会が設置され、町ぐるみの研究活動の体制が整えられた。

(2) 研究の目的

学校図書館資源共有ネットワーク推進事業の究極の目的は、「ネットワーク化により、子どもたちの読書活動や学習活動を意欲的主体的なものに高めていくこと」である。読書の定着と図書館を活用した学習スタイルの習得は豊かな心と確かな学力の向上につながり、ひいては生涯学習への意欲へとつながっていく。

吉田町学校図書館連絡会議では、この目的に照らし、子どもたちの実態や研究の進捗状況を振り返り、町として次のような研究の目標を設定した。

- ・学校間の連携の方法及び町立図書館との連携方法を工夫して、町の実態に根ざしたよりよいネットワークの在り方を構築する。
- ・ネットワークや学校図書館を活用した授業の在り方を実践を通して研究し、子どもの学力と教師の意識や力量を高める。
- ・ネットワークを活用した子どもたちの読書量と読書領域を広げるための手立てを工夫する。

このような目標を実現するために、吉田町学校図書館連絡会議では、研究主題を「読む楽しさ学ぶよろこびにあふれる学校図書館」とし、町内4校と町立図書館が連携して研究に取り組むこととした。

3 研究の方法

(1) ネットワークシステムを構築する

- ア 町立図書館と学校図書館との連携
- イ 学校間相互貸借システム
- ウ 小・中学校テーマ別蔵書リストの作成

(2) 研修をとおして職員の意識を高める

(3) ネットワークを活用した授業を研究する

- ア 小学校の実践
- イ 中学校の実践

(4) 読書指導の方法を工夫する

- ア 学校図書館と出会うオリエンテーション
- イ 「本探しの旅に出よう」
- ウ 「中央子ども読書の日」
- エ 読書旬間から読書月間へ

(5) 学校図書館の運営方法を工夫する

- ア 図書委員会新聞で情報交換



おすすめ本の紹介



学級文庫の貸し出し

イ 「先生方のお薦めの本」コーナーの設置

ウ 「同じ作者の本」コーナーの設置

(6) ボランティアの活動を工夫する

ア ボランティアによる読み聞かせ

イ ボランティアのための読み聞かせ講座

ウ ネットワークシステムを活用した読み聞かせ

エ ボランティアによる図書室の掲示



「同じ作者の本」コーナー

4 研究の組織

吉田町ではこの事業に取り組むにあたって、次の三つの組織を中心に研究を推進してきた。

(1) 学校図書館支援センター委員会

学校図書館支援センター委員会は、学校図書館連絡会議を下部組織に持ち、この事業を支援する役割を担っている。学校図書館連絡会議から提案された企画を吟味し、実践の状況について指導・助言を行う。

メンバーは、教育長、教育委員会職員、町内各校の校長または教頭、司書教諭、学校司書の代表、町立図書館長等、総勢17人で構成されている。管理職が参加することで各校での職員の意識が高まり、研究実践が円滑に推進されることを考慮に入れての構成である。

会議は、年間3回程度実施される。

(2) 学校図書館連絡会議

学校図書館連絡会議は、平成12年から町立図書館と学校図書館との連携を推進してきた。ネットワーク事業においても推進の核となって、研究と実践の実務をこなしている。主な仕事は、研究と実践の企画立案、研究の進捗状況についての情報交換、研究のまとめ等である。

メンバーは、町内4校の司書教諭と学校司書8名、町立図書館司書2名、学校教育課職員2名、担当教頭が1名という、小回りの効く人数で構成されている。

会議は月1回、それぞれの実践を持ち寄って行われている。

(3) 吉田町教育委員会学校教育課

学校教育課は、研究全体の統括・指導・連絡調整に当たる。具体的には学校図書館連絡会議や学校図書館支援センター委員会の招集や指導、県との連絡調整、予算管理、学校司書の派遣、ネットワークシステムの管理、ボランティアの講習会の設定などの役割を担っている。

